日々の生活にある学び

花卉園芸学研究室学部修士課程２年
村　岡　　巧

柏の葉キャンパスに花卉園芸学研究室が設立されてから、早５年が過ぎました。キャンパスの周辺では、以前に比べれば落ち着いてきましたが、いまだに重機が動いている姿が見られ、気づいた時には、新しい建物や道路が増えています。そんな周囲の環境と同じく、常に変化し続ける柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室の今をお伝えします。

柏の葉キャンパスの学生たち

柏の葉キャンパスは、現在、渡辺先生・金谷先生を始めとした教職員、技術職員の方々にご指導いただきながら、10名の学生が学生生活をおくっています。研究内容は、屋上緑化や花色の経時変化、花弁表面の構造や園芸植物の生理障害など、幅広い分野の研究を行なっています。また、研究だけでなく週に一度の共同作業では『生産から流通まで』の合言葉のもとに、「高度化セル成型苗生産利用システム」を利用した花苗の実践的技術を学んでいます。実際に消費者の手に渡る商品の播種から出荷までのすべての生産工程に関する技術を学ぶと同時に、学んだ知識や経験を、研究活動にどのように結び付け、実践していくのかを考えながら作業に取り組んでいます。

日々の生活を通じて

学生は、それぞれ異なる研究を行なっているため、日常生活においては、多くの場合、個別に活動しています。しかし、学生間における会話や交流が少ないわけではありません。自身の研究の疑問点などをお互いの専門知識を総動員して議論することで、新たな視点からの意見が得られたり、実験手法や分析機器の使い方などを教えあったりといった場面が多く見られます。その他にも、日々の灌水作業や実験植物の栽培にあたっても「これは、こうした方がよいのでは？」といった気づきなど、様々な場面において活発に話し合いが行なわれています。自分自身では気がつかなかったことや、たどり着けなかった考え、解決策などが他の人から簡単に出てくることもしばしばあります。このように、一人ではできないこと、気づかないことを学生みんなで協力して高めあい、共同生活をしていく姿は、昔も変わらず見られた日常の風景だったのではないでしょうか。また、離れてしまっても花卉園芸学研究室は花卉園芸学研究室。研究室としてのつながりは今も昔も変わらず、松戸キャンパスの学生との交流は続いております。現在は、大学祭に向けて両キャンパスの学生間で協力して、花苗の栽培や仕入れの準備などを行なっています。

多様な視点から学ぶこと

柏の葉キャンパスで生活していると、様々な人達との交流があります。柏の葉キャンパスでは、トウキやヨモギ、オタネニンジンなど機能性植物の研究も行なわれています。そのため、薬学の先生や共同研究先の方々と共同作業をご一緒したり、ゼミにおいて研究の話をしていただくこともあります。また、先生のお知り合いの方や研究室のOB・OGの方々など、様々な分野の方とお話をする機会も多くあります。そして、作業や議論の中で、園芸学的な視点とは異なった視点での植物の話や、学生だけでは考えも至らなかった発想や価値観など、多様な視点や考え方に巡り合います。現在の花卉業界について学ぶとともに、自らの視野を広く持つことは、社会に飛び込んでいく際に何をすべきか、何を活かして貢献できるのかを真剣に考える良い機会だと思っています。これらのことは、私たち学生にとって貴重な経験であり、私は、このような価値ある機会を経験できる柏の葉キャンパスで生活をしていることを、非常に嬉しく感じています。

今後も花卉園芸学研究室の学生たちは、自分の研究や対象植物だけにとどまらず、多様な植物とその利用法、多くの方々の考え方や価値観に巡り合うことによって、自分自身がどのように成長できるのか、どのように社会に貢献できるのかを考えながら、日々の学びを継続することで自身を成長させていきます。今後も皆様のご支援・ご指導をよろしくお願い致します。